

エイトが著効したコロナ後遺症による ギランバレー症候群に伴う疼痛の一例



園ペインクリニック
院長 松本 園子先生



症例患者について：

22歳 165cm.47kg 元看護学生
(コロナに罹患後、歩行困難のため、解剖実習時から退学)

経過：

- ◇ 2021.4 味覚障害、COVID-19+ 翌日解熱
- ◇ 4日後、下半身全体しびれ、左腕全体にしびれ
⇒左手足の脱力感、つっぱり感、歩行困難
左上下肢優位の筋力低下と異常感覚、腱反射は左右差なし、髄液検査正常
神経伝導検査F波出現頻度低下⇒ギランバレー症候群の診断
- ◇ 血漿交換+PSLパルス療法⇒リハビリ転院
- ◇ 2022.5～左手足倦怠感悪化⇒歩行困難、食事困難、不眠
- ◇ 2022.7 入院精査、頭部MRI、反復刺激、針筋電図、Head up tilt試験正常
- ◇ 2022.8 前院のコロナ後遺症外来受診
デュロキセチンの内服治療
ビタミン、ホルモン、生化学、電解質正常
Alb3.8↓ CRP1.05↑ Zn78.3↓
血液像にてEosino20.5↑
- ◇ 2022.11 当院ペインクリニック科紹介受診
- ◇ 左上肢の痛みとしびれ⇒腕神経叢ブロック
- ◇ 下半身の痛みとしびれ、力が抜ける感じ⇒腰部硬膜外ブロック
- ◇ 漢方薬内服 抑肝散、当帰四逆加呉茱萸生姜湯のみ
- ◇ 2022.12 腕はNRS10から6へ低下 まだ10mも歩けない
ブロックで一時的に下がるが下肢の痛みは継続 NRS10から8へ低下

エイトを始めてからの経過：

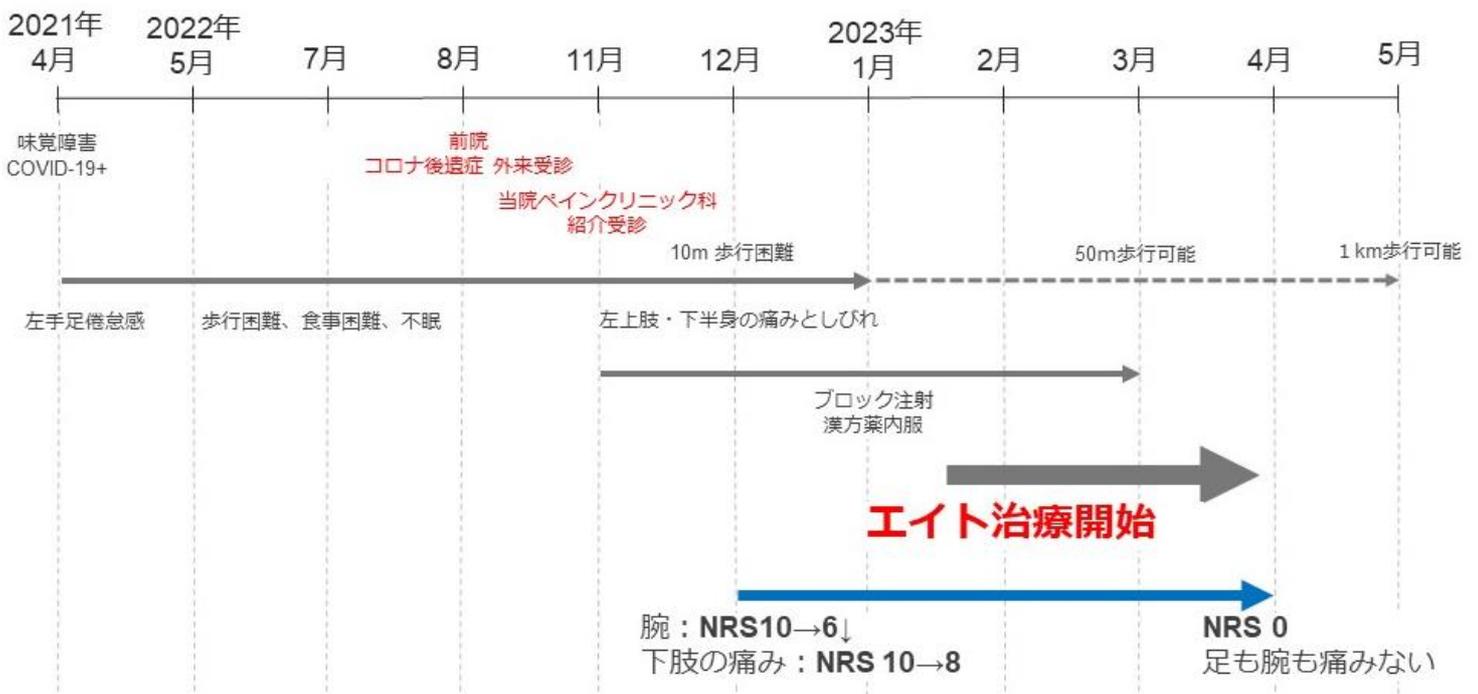
- ◇ 2023.1 下旬 エイト始める
- ◇ 1週間後 効き目まだわからず
- ◇ 2023.2 上旬 下肢に少し効いている
まだ効果わからない→腹部の治療勧める
- ◇ 2023.3.3 1月まであった痛みはなくなった50m歩ける
ペットボトル持てるようになった
→ブロック、漢方治療併用終了
- ◇ 2023.4 足も腕も痛みないNRS0
- ◇ 2023.5 普通に歩ける、1km歩いている 復学を考えている

コロナ感染約半年後に初見であったが、学校も退学し一日家で寝たきり状態であった。気も落ちている状態であり、漢方薬で気剤を加えながら、上下肢で痛みが強いほうの神経ブロックを行った。

ブロック後、痛みとしびれの改善がみられるがなかなか長持ちしない。治療が開始され家族がコロナに感染したかかもしれないとのことで治療一旦休止し症状がひどくなった。当時の滋賀医大ペインクリニック科の教授にエイトのお話を聞いて早速患者様にすすめた。家にいる時間がほとんどでやることもないといった様子だったのと、強い薬を内服するよりもはるかに低侵襲であり若い女性にもすすめやすかった。

わたしもエイトが初回の症例で半信半疑の紹介だったが、（今考えると経験不足で大変申し訳ない）彼女は藁をもすがる勢いで、ひたすらエイトを痛いところに充てていたようである。

経過



エイトの効果：

2週間ほど経ち、下肢に効いているような印象であった。本人として効果はまだ実感できないようであった。腹部にあてることで痛みの軽減の報告もあるらしい、と話し毎日エイトを数時間行っていた。

エイトを使用して1ヶ月経った頃から、急に痛みが減り歩けるようになったということだがそのころからディズニーランドへ行くなど活動的になってきた。その後の経過は急激でエイト初めて2か月ほどでエイトなしでも薬も飲むことなく普通に歩けるようになった。

患者への紹介方法について：

これまでの疼痛治療と異なる原理で疼痛を緩和する医療機器であること、一日中使うことも難しくなく、ボタンを押すだけで治療も開始できるため、使い方も簡単簡便、危険性は少ないこと、子供でも使えるし小さい子がいる方にも危ないものではない（電池の飲み込みなどは他のおもちゃ同様避けていただいて）。

1回目やって効果が感じられなくても1ヶ月以上気長にやってみること、2、3か月目から効果が出る人もいる。臨床研究も実施されているため、十分にエビデンスがある治療機器と説明できる。

導入後の運用方法：

1日最低30分2時間まで使用することとなっている。

充てている間、効果が実感できるとのこと、又、腹部に充てることもあらゆる場所の痛みの軽減につながるとのこと、本症例患者も二週間目より腹部に充てることで痛みの感じ方が変わってきたとのことであった。

エイトへの今後の抱負と期待：

まずエイトをあきらめずに使用してもらうことが重要で、最低1か月使用してもらうことが必要と考える。じわりじわりとゆっくり効いてきて1、2か月目くらいから急激に痛みがひいていく印象がある。

外出も難しい場合は家でながら作業でずっとあててもらえればいい。これまでの臨床使用経験上では副作用の発現もないのでワクチン接種によるSIRVAや小児のMICによる腹痛にも期待できそうである。

コロナ後遺症関連疾患について

コロナ後遺症について、頭痛や全身倦怠感、上肢下肢のしびれが等あり、関連疾患には、SIRVAや小児コロナ後遺症MIC-C/PIMSがある。小児へのエイトの使用は、使用経験がなく、安全性が確立されていないため、医師の判断に依るところとなるが、小児コロナ後遺症MIC-C/PIMSに起因する疼痛にもエイトの効果が期待できそうである。

・ SIRVA

「Shoulder Injury Related Vaccine Administration」の略で、筋肉注射によるワクチン接種をきっかけに起きる、五十肩のような強い肩の痛みや、肩の可動域制限が生じる。

・ 小児コロナ後遺症MIC-C/PIMS

発疹や眼球結膜充血など部分的に川崎病様の症状を認め、川崎病の診断基準を満たす例が存在する。発熱以外に腹部症状（腹痛、嘔吐、下痢など）や循環器症状などの複数の臓器に異常がみられる小児を診療した場合に MIS-C/PIMS を疑う。

薬事情報

販売名：エイト

承認番号：30400BZX00015000

一般的名称：交番磁界治療器

医療機器クラス分類：クラスII

（管理医療機器 特定保守管理医療機器）



株式会社P・マインド

〒861-5525

熊本県熊本市北区徳王2-8-6

TEL 050-3160-8350

MAIL contact@p-mind.co.jp